

〔中世〕小立花村。戦国期に見える村名。出羽国秋田郡のうち。「慶長6年秋田家分限帳」に、秋田氏家臣栗沢弥五郎の代官所支配14か村中の1村として、「湖東通小立花村」38石余と記載（秋田家文書）。これが唯一の所見史料。

天正19年秋田実李の当知行を安堵した豊臣秀吉朱印状写では、浦町村の中に含まれていたとみられる。浦城膝下の城下町の一角を占める。

〔近世〕小立花村

江戸期の村名。秋田郡のうち。秋田藩領。慶長8年の村高37石余と推定される。小村ながら中世末期を受けて、独立村として近世村落に継承。寛永17年3月21日藩士小室孫兵衛に「小館花村」内タライ沢の開発を許可した指紙および延宝9年7月20日の指紙などがある（私戸渡部家文書）。「正保国絵図」では小立花新田村59石、「元禄7郡絵図」でも小立花新田村84石余と図示。新田村と認定されていたことが判明。新田の字をとったのは宝永年間の郡村改めの際と推定される。「小館端村、宝永七年浦大町加村と成」（享保郡邑記・秋田風土記）とある。

一時期浦大町村の枝郷となったか、または黒印御定書がこの後当村1こ交付されず浦大町村に併せて交付されたことを意味するのであろう。「享保黒印高帳」では村高93石余・当高85石余（うち本田62・本田並8・新田15）、「寛政村附帳」で当高84石余（ほとんど給分）と認定。親郷一日市村の寄郷である。俵沢（盪沢）・元沢（ぼつけさわ）・白水沢・白ヶ沢（うすがさわ）の各堤を用水路とした。戸数は「享保郡邑記」「秋田風土記」ともに7軒。「天保郷帳」では85石余と登載するか、この頃には浦大町村の枝郷となっていたらしい。明治11年郡区町村編制法施行後は浦大町の小字として地名を継承し、昭和33年八郎瀧町から当地区が五城目町に編入となり、浦横町字小立花として現在に至る。

1980.3出版 角川日本地名大辞典 5 秋田県

こもちざわ【浦大町子持沢】

位置

町の北東部にあり、「コダテハナ」沢の一番奥にある。西に白ヶ口につながり森山の北側の麓にあたる。

ごりんざか【真坂五輪坂】

ごりんざか

真坂から高岳山を越える峠を五輪坂といい、市野から一日市に行商に来る人はこの坂を越えてやってきたという。国道7号線沿いのドライブインから沢に入る。

1998/7 中羽立 村井西二郎談

こりんざか

秋田県の各地に五輪坂という地名がある。羽後町の五輪坂の由来は「平泉の藤原泰衡が河田次郎に裏切られ殺された。このことを知らずに比内の地に訪ねてきた泰衡の妻子は夫が殺されたことを知り、悲しみのあまり自害した。これを哀れんだ村人が五輪塔を建て供養した。」のが始まり。

1988年 むめひろし著 地名譚^{はなし}

ごりんざか

街道は真坂の集落が終わるあたりで北西に向きを変えるが、現齊藤家の所から右方向に分かれる道があり、これは現国道7号線を越えて北東方向に進んでいる。現在も確認されるが、通称「五輪坂越え」の古道である。高岳山の北側鞍部を経て現山本郡琴丘町市野に達するが、美倉鼻を通過する羽州街道が開通する前は、もっぱらこれを利用したという。

「歴史の道調査報告IV 北部羽州街道」

秋田県教育委員会

ごりん

県内には「五輪沢」「五輪坂」「五輪台」等「五輪」の付いた地名がありますが、これは「五輪塔」